

問題1~6 から2つ選び、それぞれについて論じなさい。問題番号を明記し、1つの問題ごとに1つの解答(マイクロソフト Word ファイル)を作成せよ。文字数は3,000字程度(2,700字以上 3,300字以内)、引用文献リストは文字数に含めないものとする。

問題番号1

近年、医療における患者当事者参画(Patient and Public Involvement: PPI)が、患者や一般市民が医療や研究の計画・運営に主体的に関わることを目指す取り組みとして注目されている。このPPIの文脈において、ピアサポートが果たす意義と、ピアサポートの導入・実施における課題について、自身の経験や具体的な事例を基に、以下の点を考慮しながら述べなさい。

- ・ピアサポートがPPIにどのような価値をもたらすのか—特に患者の視点や経験が医療提供や研究などにどのように影響を与えるか—について説明しなさい。
- ・ピアサポートの導入に伴う課題について議論せよ。
- ・ピアサポートを通じたPPIの効果を最大化するための具体的な方策を述べなさい。

注意事項

- 最新の学術文献や実践例を引用して、論旨を具体化しなさい。
- 理論的な裏付けと共に、自身の経験に基づく考察も加えなさい。

問題番号2

近年、日本の学校現場において「協同学習」が取り入れられている。あなたが小学生を対象に「協同学習」の効果を検証・実証するための心理学的研究を行うとして、その「研究論文」の前半までの部分を作成せよ。すなわち、研究の「題目」を付け、適切な先行研究を引用しながら「問題意識」を作成し、「研究目的」および「研究仮説」を明示し、どのような方法(想定する分析方法も含めて記述すること)で仮説を検証するのか、までの部分を学術論文の体裁で作成せよ。その際、この研究における複数のキーワードを挙げておくこと、また引用文献は最後にリストにしておくこと。研究論文の記述にあたっては、日本心理学会の執筆規定に従うこと、引用文献の記載の仕方についても採点の対象とする。

問題番号3

現代の日本とイギリスにおける多文化主義と多文化共生教育を巡る議論について、両国の歴史的背景を踏まえて考察しなさい。なお、解答には以下の要素を含むこと。

1. 最近の時事問題または自身の経験を踏まえ論点を示すこと。
2. 主張の根拠として、日本とイギリス両国の歴史から、植民地支配や戦後の国際関係、法律・学校などの制度や社会・経済の状況などの具体的な説明をすること。

また、以下の点にも注意すること。

直接・間接に関わらず、引用文献の書誌情報については、歴史研究として必須の項目が記載され、適切な方法で示されていることも評価の対象となる。

英語文献の参照は望ましいが、必須ではない。

問題番号4

コロナ禍を経て、ICT 教育が注目を浴びている。そこで、近年 ICT 教育が求められている理由をまとめ、その理由に対するあなたの考えを述べなさい。論述に際しては、ICT 教育とは何かを明示すること。

問題番号5

2006 年 12 月に採択された国連の「障害者の権利に関する条約 第 24 条 教育 (Convention on the Rights of Persons with Disabilities Article 24 Education) により、インクルーシブ教育 (an inclusive education system) の推進が提起されている。インクルーシブ教育における「合理的配慮 (Reasonable accommodation)」とは、特定のケースにおいて必要とされる場合に、障害のある人が他の者と平等にすべての人権および基本的自由を享有または行使することを確保するために、不均衡または過度の負担を課さない、必要かつ適切な変更および調整 (necessary and appropriate modification and adjustments) とされている。

合理的配慮に係る、変更 (modification) および調整 (adjustments) の意味することを、それぞれ具体例を挙げ説明せよ。また、変更 (modification) および調整 (adjustments) をどのような視点で評価すべきか自身の考えを述べよ。

問題番号6

令和 3 年 1 月 26 日中央教育審議会が「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適化な学びと、協働的な学びの実現～(答申) 報告書を提出している。現在、幼児教育、義務教育、高等教育および特別支援教育に至るまでこの方針に基づいてさまざまな政策や研究が展開されている。本答申と関連づけながら、あなたの研究について述べなさい。

問題 1～6 から 2 つ選び、それぞれについて論じなさい。問題番号を明記し、1 つの問題ごとに 1 つの解答（マイクロソフト Word ファイル）を作成せよ。文字数は 3,000 字程度（2,700 字以上 3,300 字以内）、引用文献リストは文字数に含めないものとする。

問題番号 1

教育が社会的および政治的な支配の道具として使用されてきた事例を日本とイギリスの教育の歴史から 1 つずつ選び、比較しながら概略を説明しなさい。その説明を踏まえて、それらの事例が現代の教育における批判的思考に関する議論との関連性を、最近の時事問題および自身の経験や体験を参照しつつ論じなさい。

なお、直接・間接に関わらず、引用文献の書誌情報については、学術論文として必須の項目が記載され、適切な方法で示されていることも評価の対象となる。英語文献の参照は望ましいが、必須ではない。

問題番号 2

ウェルビーイング (Well-being) という用語が初めて用いられたのは、1946 年、国際保健会議が採択した世界保健憲章の健康の定義の中である。「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」日本 WHO 協会では「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます（日本 WHO 協会訳）」と和訳されている。その後、ウェルビーイングの概念と構造は様々な領域の中で追究されてきた。例えば、看護の領域では、渡部・荻野 (2020) が文献研究を行い、看護におけるウェルビーイングの概念を【先行要件】【属性】と【帰結】に分けて整理している。（注 1）また、教育領域では、勝浦 (2021) は論文の中で、ドイツ日本研究所の「親のウェルビーイング」の構造についての研究結果を紹介し、親のウェルビーイングが客観的な生活状況と連動し、相互に影響することを示したうえ、子どもの発達にも影響を与えることを指摘している。（注 2）

以上の論文を参考にしながら、あなたが考えたウェルビーイングについて論述してください。

注 1：渡部 幸子・荻野 雅 (2020) 看護における well-being の概念分析、武蔵野大学看護学研究所紀要 第 14 号、p11-18

注 2：勝浦 眞仁 (2021) 親の well-being に関する理論的検討—IDD のある子どもを育てる親の well-being 概念の検討に向けた予備的考察、桜花学園大学保育学部研究紀要 第 23 号、p85-99

問題番号 3

WHO は 2001 年、「国際生活機能分類 (ICF : International Classification of Functioning, Disability and Health)」を採択した。ICF では、障害の状態は、疾病等によって規定されるだけでなく、その人の健康状態や環境因子等と相互に影響し合うものと説明されており、疾病等に基づく側面と社会的な要因による側面を考慮した、「医学モデル」と「社会モデル」を統合したモデルとされている。

これに関連して、「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）」においても、ICF の障害の捉え方を踏まえることが示されている。ICF の特徴と自立活動との関係について例を示して説明しなさい。次に、ICF との関連から、自立活動の指導に際する留意点を 2 点にまとめて述べなさい。

問題番号4

社会が多様性を尊重し受容する方向で進もうとしている一方で、たとえばネット上では攻撃的で不寛容な反応から炎上事案も頻繁に起きている。あなたが「日本における寛容な社会の構築」を目指すべく、何らかのテーマ(研究上の切り口、観点)を設定して、心理学的な研究を行うとして、その研究計画の概要を作成せよ。

すなわち、研究の「題目」を付け、適切な先行研究を引用しながら「問題意識」と「研究目的」、さらにどのような「研究方法」(想定する対象者、想定する分析方法も含めて記述すること)で行うのか、までき、学術論文の体裁に従って作成せよ。その際、その研究における複数のキーワードを「題目」の次に挙げておくこと。また引用文献は最後にリストにしておくこと(引用文献の記載の仕方採点の対象)。

問題番号5

医療における患者の自己決定の重要性については、インフォームドコンセントの概念の普及に伴って広く知られるようになってきている。患者の自己決定とは何かを説明し、日本の医療制度や倫理的背景を踏まえて、他国(例:アメリカやヨーロッパ諸国)における自己決定のあり方と比較して、その特徴を論じなさい。また、患者や家族の意思決定を支援するための教育プログラムの必要性について、ご自身の考えを述べなさい。

注意事項

*論述にあたっては、具体的な事例や学術的な理論を適宜引用しながら論じること。

問題番号6

近年、日本の教員不足の問題は社会に広く知られるようになった。なかでも、義務教育段階の公立小学校・中学校の教員不足は深刻化している。そこで、日本の公立小学校・中学校の教員不足が生じる要因とそれを改善するための対策をまとめ、日本の公立小学校・中学校の教員不足についてあなたの考えを論じなさい。